福岡和白病院 | 広報誌

いのち、痛みに全力

VOL.54
2023/Jan

地域医療により大きく貢献!!

CONTENTS

- 院長より新年のご挨拶
- 心臓血管外科部長　元春洋輔Dr 特集
- ハイブリッド手術室改装
- 認定看護師シリーズ
- クリスマス会
- お正月メニュー・鏡開き
- お家でカンタン体操
- 医療連携医紹介

基本理念 | 手には技術、頭には知識、患者様には愛を

基本方針 | 高度医療　学問的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。
チーム医療　患者様の目線に立った安全で安心できるチーム医療を提供すべく、急性期医療から、早期リハビリ、退院支援までニーズに沿った医療を提供します。
地域医療　いつでもだれでも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域の中核病院を目指し、地域の医療施設・福祉施設と密接な連携を推進します。

いのち、痛みに全力
福岡和白病院　広報誌
第54号　2023年1月発行

ホームページ
https://www.f-wajirohp.jp/

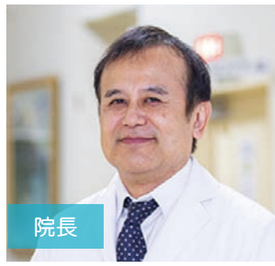
Facebook
http://www.facebook.com/wajiro

YouTube 福岡和白病院チャンネル
https://www.youtube.com/channel/UCqS7CXLP3wOz3g_-xwlzzqQ

医療連携医のご紹介　医療連携室だより

生活に密着した医療のホットステーションを目指します。

医療法人 七雍会 はらの内科クリニック



こんにちは、2022年4月に旧村西内科クリニックを継承させて頂きました原野です。呼吸器、甲状腺、消化器内科、小児科を標榜していますが、総合診療を基本として地域の家庭医として活動しています。

当院は、初代村西先生、2代目上田先生と20年以上に亘り地域で診療にあたってきました。先代の先生方の献身的な実績を損なうことなく、さらに生活に密着した敷居の低い医療のホットステーションとしてあり続けることを目指しています。

また、JICA専門家としてインドネシアに2年、外務省大使館医務官として5年、シンガポール系国際医療グループの中国天津特別区の責任者として3年海外で医療活動をしてきましたので、地域の在留外国人へも貢献できればと考えています。

福岡和白病院様には日常診療の中からペースメーカ、PCI、腹部大動脈瘤など専門的な診療や処置をお願いさせていただき、受診した患者様からも好評を頂いています。引き続き病診連携を賜りまして、地域医療に貢献できることを願っています。

医療法人 七雍会 はらの内科クリニック
院　長：原野　和芳
診療科：消化器内科・内科
住　所：福岡県粕屋郡粕屋町長者原3-2-30
電　話：092-938-9234
駐車場：完備

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30	●	●	●	●	●	●	／
14:00～18:00	●	●	／	●	●	／	／

休診日：水曜日午後・土曜日午後・日曜日・祝日

交通アクセス

福工大前駅（JR）から徒歩15分
和白駅（JR）から徒歩10分
和白丘バス停（西鉄）から徒歩3分
和白駅（西鉄）から徒歩10分
福岡空港から車で約30分

社会医療法人財団　池友会　福岡和白病院
〒811-0213 福岡市東区和白丘2-2-75　E-mail info@f-wajirohp.jp
TEL.092-608-0001（代）　福岡和白　検索

災害拠点病院　開放型病院　地域医療支援病院　救急告示病院
基幹型臨床研修指定病院　日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療連携拠点病院　福岡県DMAT指定医療機関

心臓血管外科部長

元春 洋輔 先生

コメント

平成28年３月以来、６年ぶりに福岡和白病院に心臓血管外科部長として戻ってきました。心臓血管に関してこれまで様々な病院で学んできました。これまでの経験を福岡和白病院にかかる患者さまに還元できるように務めて参りたいと存じます。患者さまには「診てもらって良かった」そう言って頂ける様、思いのある診療を心掛けて参りたいと思います。

所属学会

日本循環器学会、日本心臓血管外科学会、
日本胸部外科学会、日本外科学会、
日本救急医学会、日本集中治療医学会

資格

- 日本外科学会外科専門医
- ３学会構成心臓血管外科専門医
- 日本救急医学会救急科専門医
- ICD制度協議会認定インフェクションコントロールドクター

略歴

H21.3　長崎大学卒
H21.4　健和会大手町病院　初期臨床研修医
H24.4　榊原記念病院　心臓血管外科
H27.4　福岡和白病院　心臓血管外科
H28.4　新久喜総合病院　心臓血管外科
H30.9　帝京大学医学部　心臓血管外科学講座　入局
R4.10　福岡和白病院　心臓血管外科部長

新年のご挨拶

福岡和白病院
院長　益田 宗孝

新年あけましておめでとうございます。

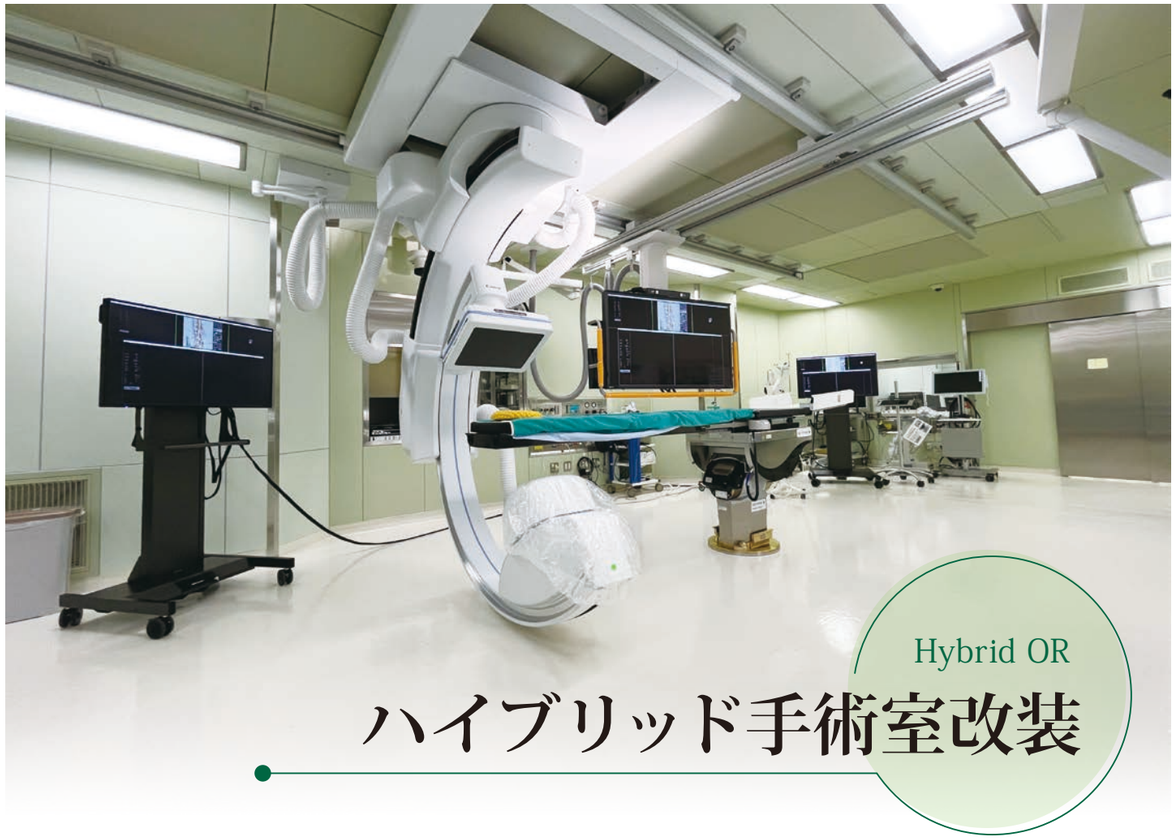
昨年も新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は治まることを知らず、第6波、第7波、第8波とピークが来るたびに感染者数が増加し、市民生活と医療を圧迫しましたが、感染者数に反比例して重症化率は低下し、COVID-19を2類感染症相当から外す検討もなされるようになってきました。当院はコロナウイルス感染症重点病院として福岡地区のみならず県内全域から患者さんをお引き受けすると同時に、逼迫した救急医療を支えるべく、夜間土日祝日を問わず一般救急患者さんも可及的にお引き受けする方針を立て、昨年は過去最高の年間6500台を越える救急車を受け入れました。脳梗塞・脳出血などの脳神経系、心筋梗塞や大動脈解離などの循環器系、骨折などの運動器系、肺炎などの呼吸器系を含めて、多彩で緊急を要する重症症例に対して、常時対応できるように努めて参りましたが、第7波では余りに救急要請が多く、病床の関係で全ての患者さんを受け入れることができなかったことは痛恨の極みでありました。現在は近隣の病院やクリニックの先生たちとの連携を深め、病床の円滑な運用に努め、より多くの患者さんのニーズに応えられるようにしております。

当院では地域医療支援病院及び地域がん診療連携拠点病院として新しい医療を提供できるように努めております。昨年は、形成外科、皮膚科（外来のみ）の診療開始と脊椎脊髄外科の再開に加え、脳神経外科において3D外視鏡手術システムや覚醒下手術、整形外科において関節手術におけるナビゲーション手術システムを導入しました。ハイブリッド手術室を刷新して経カテーテル的弁大動脈弁置換術、経皮的左心耳閉鎖術（Watchman®）、大動脈瘤のステント内挿手術、カテーテル的末梢血管形成術などの循環器系治療の精度の向上を行いました。また、２年前に手術支援ロボットDa　Vinci（ダヴィンチ）Xi® を導入し前立腺がんのロボット支援下手術を開始しましたが、昨年は肺癌や腎臓がんに対するロボット支援下手術も開始し、今年は大腸癌に対するロボット支援下手術を開始する予定にしております。

がん治療においては手術だけではなく、がんの遺伝子診断による最適な治療法選択（がんゲノム医療）を九州がんセンターと連携して参ります。

当院には看護のスタッフに加えて、100名程のリハビリテーションスタッフと11名の管理栄養士が在籍しており、直接入院患者さんの元まで出向いて、病状の回復と早期退院のお手伝いをさせていただいております。

本年も“手には技術、頭には知識、患者様には愛を”という病院の理念を推し進めて参りますので、宜しくお願い致します。



Hybrid OR

ハイブリッド手術室改装

当院では最先端の高度医療を提供するために、2017年に手術室内に血管造影装置を整備したハイブリッド手術室を整備し、multimodality imaging systemを駆使した各種最新治療を施行しています。

当院でハイブリッド手術室を利用した手術は2022年末までに胸部・腹部大動脈瘤に対してステントグラフト治療が約330例、経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVR) を130例強、経皮的左心耳閉鎖術 (Watchman) 約40例に加えて、下肢閉塞性動脈疾患に対する血管内治療 (EVT) やバイパス手術等と、数多くの治療を行ってきました。

ハイブリッド手術室利用実績（2022年末まで）

胸部・腹部大動脈瘤

- ステントグラフト治療 約330例
- 経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVR) 130例強
- 経皮的左心耳閉鎖術 (Watchman) 約40例

他

- 下肢閉塞性動脈疾患に対する血管内治療 (EVT) バイパス手術等

いずれの治療も最新デバイスを用いた低侵襲な経カテーテル治療であり、患者さまへの負担を最小限にすることができ、非常に良好な治療結果を得てきました。
また脳神経外科においては脳血管バイパス手術中血管造影を行い、より良好な手術成績に寄与してきました。

今回はこれまでの治療経験を背景に、更に高精度な治療を提供する事を目的としてハイブリッド手術室血管造影装置を最新機種に更新致しました。
診断治療機器の技術革新は著しく、極めて高解像度な画像を高速に描出できるため、診断画像の視認性は大幅に向上し、より安全かつ精密な治療を安心して行える様になりました。更に、様々な被曝線量低減技術により照射線量はほぼ半分まで減らすことができ、こちらも患者さまには大きなメリットになります。換気構造も改善されており、より清潔な術野環境を実現しています。

本年我々はこの最新装置を用いて、僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁クリップ術 (MitraClip) を導入予定です。人工弁周囲逆流に対する経カテーテルプラグ閉鎖術も保険収載見込みであり、更なる高みに向けて最善の医療を提供すべく努力を続けて参ります。

痛み 命 に全力

集中ケア認定看護師の谷口誠太と柳田和之です。認定看護師とは、日本看護協会が定める認定制度です。その中での集中ケア認定看護師の役割は、生命の危機的状況である患者さまに対して、二次合併症の予防や回復に向けた看護と、そのご家族に対するケアを積極的に実践し、他スタッフへの指導や相談を受けることを指します。主に集中治療領域（当院では ICU や HCU）において活動しており、現在 2 名の集中ケア認定看護師が在籍しています。そのような集中ケア認定看護師の活動についてご紹介します。

1 人工呼吸器装着中の患者に対する介入

呼吸状態が悪い患者さまに対し人工呼吸器を装着することがあります。人工呼吸器を装着した患者さまが、早期に外せるよう院内をラウンドしています。ラウンドは、医師や集中ケア認定看護師･リハビリのセラピスト･臨床工学技士で週1回実施しています。各分野の視点から患者さまが安全で安心できる治療が受けられ、早期に人工呼吸から離脱できるための取り組みをチームで話し合いながら活動しています。

2 集中治療室内からの早期リハビリテーションと早期栄養への介入

重症度が高い患者さまにおいても、早期のリハビリテーションや栄養開始が重要です。集中治療室（ICU）内において毎日、医師や ICU の看護師・リハビリのセラピスト・管理栄養士と共に ICU 内に入室する全患者の活動や栄養について話し合い調整を行なっています。

3 院内・院外に向けた教育支援

患者さまを観察するための方法や技術に関する学習会を院内・院外に向けて開催しています。それらの質を担保し維持・発展させるために、自己研鑽に励みながら支援を行なっています。その一つとして、柳田和之が研修している特定行為研修についてご紹介します。

特定行為って？

特定行為研修は、看護師が手順書により特定行為を行うために必要な研修です。その研修は、実践的で理解力や思考力が必要であり、高度かつ専門的な知識や技術を向上させるための研修です。この研修を終え認定されることで、患者さまの状態変化を見極め、患者さまにタイムリーな対応ができると期待され、当院でもその取り組みが行われています。

【お家でカンタン体操 肩こり予防（棒体操）】

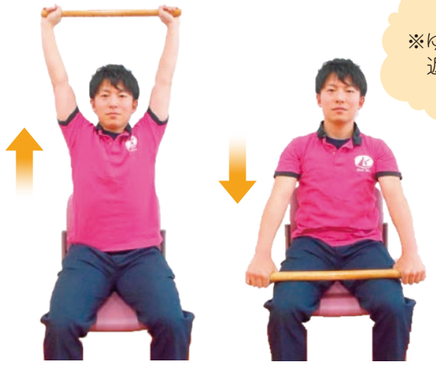
コロナウイルスの影響によって外出する機会が減り、自宅でテレビやパソコンを見る等、座って過ごす事が多くなっていると思います。また、日本人は床に座る機会が多く、背中が丸まった姿勢をとってしまいがちで、多くの人が「肩こり」に悩まされています。そこで、今回は肩こり予防の体操についてご紹介します。

運動の注意点

- 椅子から落ちないように注意してください。
- 息を止めないようにしてください。
- 無理に伸ばしたり反動をつけて行わないでください。
- 痛みが出たり、痛みが増す場合は、速やかに中止してください。

棒体操（座位編❶～❸）

※棒の代わりにタオルでも可



※ゆっくり3回繰り返します。

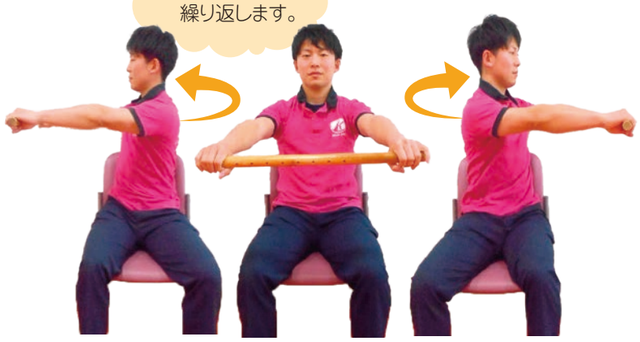
❶ 棒を持って上へ上げる

- 息を吸いながら1.2.3.4で棒を上へあげましょう。
- 息を吐きながら5.6.7.8で棒を下ろします。

※左右交互にゆっくり3回繰り返します。

❷ 棒を上げ左右に倒す

- 息を止めずに1.2.3.4で棒を右又は左に倒しましょう。
- 息を止めず5.6.7.8で体を正面に戻しましょう。



※左右交互にゆっくり3回繰り返します。

❸ 肘を伸ばし棒を左右に回す

- 息を止めずに1.2.3.4で棒を右又は左に回しましょう。
- 息を止めずに5.6.7.8で棒を正面に戻しましょう。

肩甲帯の運動（座位編）

※ゆっくり10回繰り返します。

肩甲帯挙上・下制

- 両肩を上げて力を抜きストンと肩を落としましょう。

ホームページにはこのような体操だけでなく、最新治療に関してのご案内や、各診療科の詳しい情報等がたくさん載っています。是非そちらもご覧ください。ホームページは左記のQRコードを読み取っていただくか、福岡和白病院と検索していただくとご覧になれます。

クリスマス会

コロナ禍ではありますが、感染対策を徹底し、12月23日･24日に各病棟でクリスマス会を開催しました。当日は飾りつけがされた中で、クリスマスの歌を聴いたり･口ずさんだりと季節を感じて頂き、簡単な体操等で体力づくりやストレス発散を図りました。
また、会の後には軽食やマスクの提供も他職種と協力して行えました。

参加された患者さんからは、「楽しかった」「たくさん笑った」「気分転換になった」「またイベントをしてほしい」等、多くの貴重な意見や感想を頂きました。今後も患者さんに楽しんで頂ける機会を増やしていければと考えています!!

お正月メニュー

新年、明けましておめでとうございます!
1月1日から3日までお正月メニューを提供いたしました。
入院中の皆様がお食事を食べて元気をつけていただいたり、季節を感じたりと、味でも見た目でも温度でも日々のお食事を楽しんでいただけるよう栄養管理室一同取り組んで参ります。本年もよろしくお願いいたします。

鏡開き ぜんざいを提供しました!

1月11日は鏡開き! 和白病院では毎年恒例、職員へぜんざいの提供を行いました。
職員からは、「今年もおいしい!」「毎年の楽しみでした!」と、喜びの声をいただきました。
ぜんざいは、管理栄養士が仕込みを行い、一から手作りで作りました!
皆様に喜んでいただけて、私たちも嬉しくなりました♪
まだまだ寒い冬が続きます。温かいおもち料理と体調管理で、心も体も健やかに過ごしたいですね☆